

令和6年度秋期 データベーススペシャリスト試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2024,12,26

10月13日(日)に行われた令和6年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、応用情報技術者試験の分析コメントをお知らせします。

■データベーススペシャリスト試験 (DB)

〔令和6年度秋期 データベーススペシャリスト試験 統計情報〕

応募者	14,549人
受験者	10,120人
合格者	1,744人
合格率	17.2%

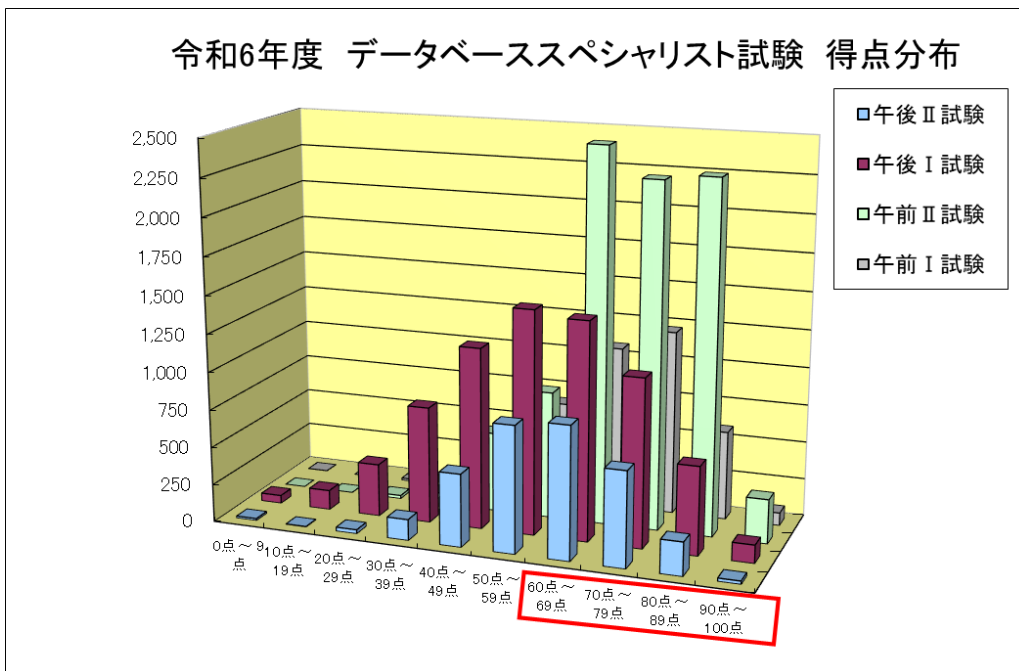
令和6年度秋期実施のデータベーススペシャリスト試験の合格率は17.2%で、前回の18.5%から少し下がりましたが、令和になってからの平均的な合格率といえます。

次に発表された得点分布の分析とグラフを示します。

〔令和6年度秋期 データベーススペシャリスト試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	1	0	53	13	
10点～19点	0	0	130	3	
20点～29点	14	21	349	26	
30点～39点	76	71	770	139	
40点～49点	263	529	1,196	481	
50点～59点	665	843	1,475	835	
60点～69点	1,078	2,462	1,436	874	
70点～79点	1,219	2,267	1,108	628	
80点～89点	588	2,304	583	221	
90点～100点	84	293	120	21	
計	3,988	8,790	7,220	3,241	1,744
対前試験比率		220.4%	82.1%	44.9%	53.8%
午前Ⅰ免除者概算	6,132	60.6%			

合格者数	1,744	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	2,969	74.4%	1,225
午前Ⅱ60点以上合計	7,326	83.3%	5,582
午後Ⅰ60点以上合計	3,247	45.0%	1,503
午後Ⅱ60点以上合計	1,744	53.8%	0



午前I試験免除対象の人も増える傾向がありますが、得点分布を分析してみると、今回午前I試験の免除者は概算で6,132人(60.6%)おり、受験者の6割の人が午前IIからの受験となっています。この午前I試験で基準点60点以上取ることができた人は今回2,969人(受験者の74.4%)でしたが、前回は受験者の55.4%でかなり増えました。

午前IIで基準点以上の人は7,326人(受験者の83.3%)で、採点数は増えたのですが、前回の85.4%からは減少しています。

午後Iで基準点(60点)以上取れた人は45.0%で、午後I試験も採点数増えたのですが、前回の53.1%からかなり低くなっています。また、午後IIで基準点(60点)以上取れた人は53.8%で、こちらは前回の51.8%から少し増加しました。

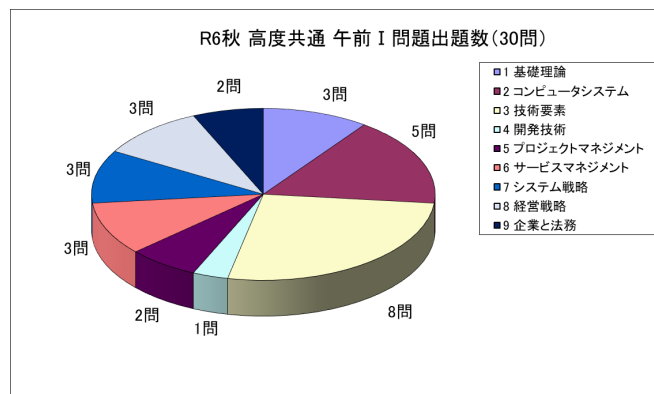
■ 令和6年度秋期 データベーススペシャリスト試験の出題内容について

[午前I試験(高度試験の共通知識問題)] 30問出題/30問解答, 50分

高度試験で共通して出される午前I試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験(AP)の午前試験80問の中から選ばれていて、テクノロジー系17問(57%)、マネジメント系5問(17%)、ストラテジ系8問(26%)という出題比率です。

午前I試験には免除制度がありますが、高度試験の約4~5割の人が午前I試験から受験しています。今回の午前I試験で60点以上取れた人は74.4%もいましたが、これまで60点以上の得点で午前II試験の採点に進む人は5~6割で、出題範囲が広いため試験問題を難しく感じる人がかなり多いといえます。難しい問題が多いときには4割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前I試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

・今回の午前I試験は、6割以上が過去問題でしたが、オーソドックスな問題が多く、前回より解きやすかったといえます。



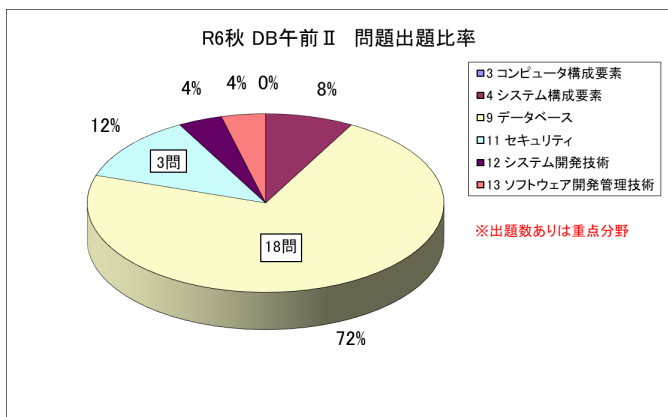
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は3問で前回の4問と大きく変わっていません。

〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕

午前Ⅱ試験はこれまで繰り返し出題される定番問題が多い傾向がありましたが、今回も新傾向問題は6問で、前回の3問から増えています。データベースの専門知識の出題数は18問で（前回と同じ）、過去問題も約7割で例年と同じ傾向でした。また、レベル4の内容まで出題されることになったセキュリティの問題は前回と同じ3問の出題で同じ傾向でした。

過去のデータベーススペシャリスト試験問題の出題は8問ありました（前回10問）。これまでいろいろな年度からまんべんなく選ばれる傾向があり、今回も同様の傾向といえますが、2回前の令和4年度の問題は3問あり、他の年度の問題よりも多く選ばれていました。

今回のデータベース専門分野の問題は、これまでよく出題されていた正規化の問題がなく（前回2問）、SQLが4問（前回2問）、ビッグデータが2問（前回なし）、トランザクション処理が4問（前回と同じ）で、出題内容に変化がありました。



〔午後Ⅰ試験〕

午後Ⅰ問題の出題内容は、問1が概念データモデリング、問2がデータベース実装、問3がDB物理設計・SQL設計・性能でした。問1の概念データモデリングは前回に続いての出題です（データベース設計の問題としては29年連続出題）。なお、問1で正規化理論が設問の一部として出題されることが多かったのですが、今回はありませんでした。問2は排他制御関連とSQLの設問が多かったです。問3のSQLではSET NULL又はRESTRICTを指定した場合の制約違反に関して出題されました。各問題でやや難しい設問が含まれていますが、全体としては、前回と同じ程度の難易度でした。

〔午後Ⅱ試験〕

午後Ⅱ問題の出題内容は、問1がデータベース実装・運用、問2が概念データモデリングで前回と同じでした。問1の運用は、バックアップとリカバリ、排他制御を中心とする設問が多く、問2は概念データモデリング図へのリレーションシップの記入と関係スキーマの完成という定番の設問でした。データベーススペシャリストの午後Ⅱ試験は、問題の分量が多く内容を読み取るのが大変ですが、今回の問1は14ページあり非常に分量が多く、問2は9ページでした。難易度は、問1、問2ともに前回よりも少し解きやすいといえるものでした。

